

行政視察報告書

参加議員	山本武朝 渡部伸広 軽米智雅子
調査期間	令和4年4月14日(木)～令和4年4月15日(金)
調査先 及び 調査事項	① 山形県鶴岡市 株式会社サリバテック ② 山形県酒田市 地方独立行政法人山形県酒田市病院機構

視察概要

■ 調査先 ① 株式会社サリバテック

■ 調査事項 唾液によるがんリスク検査

■ 調査内容

1. 令和4年4月14日(木)

2. 調査目的

全国でもっとも短命な青森県。その死亡原因の一つにがんがあげられる。またがん検診の受診率も低い。唾液で簡易に検査できるのであればがんの早期発見、早期治療、受診率向上に繋げられるのではとの考えから視察することとなった。

3. 調査先対応者

・取締役 ・鶴岡本社衛生検査所所長 ・総務経理課長

4. 説明内容

唾液から6種類のがん(肺がん・膵がん・胃がん・大腸がん・乳がん・口腔がん)のリスクをチェックすることができる。簡便で体に優しい唾液検査でがん疾患の早期発見・早期治療を目指している。現在は企業の健康診断に取り入れるところが出てきている。

5. 質疑応答

Q. 自宅で検査できるとのことだが、そのまま送ることができるのか。

A. 唾液をすぐに冷凍し、冷凍保存のまま宅急便で送り返してもらう。

Q. 常温で送れることや安価でできることが課題と思うが。

A. 今その点の研究を進めているところ。 他多数

6. 所見

がんのリスク検診は尿や血液などから検査できるものもあるが、唾液のみで痛みも伴わない、自宅でもできるという簡易さ、また複数のがんのリスクがわかるという点は他のリスク検診と大きく違う点と思う。このように簡易に

検査ができ、早期発見できれば、早期治療につながり、ひいては医療費削減につながると考える。しかし、まだ冷凍でなければならない点や値段の課題がある。安価でできるようになれば自治体と連携できるようになるのではないか。

視 察 概 要

■ 調査先② 地方独立行政法人山形県酒田市病院機構 日本海総合病院

■ 調査事項 山形県酒田市病院機構の統合・再編の経緯、経済状況

■ 調査内容

1. 令和4年4月15日(金)

2. 調査目的

青森県立中央病院と青森市民病院の統合新築に向けての参考のため。

3. 調査先対応者

・理事長 ・経営企画課課長代理 ・日本海ヘルスケアネット
推進室長

4. 説明内容

酒田市立病院の老朽化、山形県立日本海病院の赤字、北庄内地域に救命救急センターがない、医師不足などの理由から平成18年山形県酒田市病院統合再編協議会設置。平成20年地方独立行政法人山形県酒田市病院機構設置。日本海総合病院と日本海総合病院酒田医療センター開設。平成30年「日本海総合病院酒田医療センター」を「日本海酒田リハビリテーション病院」に改称。経営改善にあたっての目標や再編後の状況、経営状況等の説明を受ける。

5. 質疑応答

Q. スタッフの雇用はどのようになったのか。

A. 法人職と派遣職に分けたこと、毎年職員の同意書提出、法人移行への意思確認など時間をかけて行った結果、約7割が残ってくれた。

Q. 現在の経営状況は。

A. 平成20年の統合、再編、法人設立以来13期連続黒字決算。

機能分担による経営の効率化によるものと思う。 他多数

6. 所見

急性期と療養期の機能分担により、経営の効率化が進んでいることや、統合前より医師数が増加していること、外科医の医療技術の集約化による効果が出ていること。それにより経営状況も改善されていることに大変関心が高まった。